

第2回検討委員会での質問に関する補足説明

(1) 東静岡駅のキャパシティ・公共交通機関の輸送力

委員からの質問	事務局からの補足説明
<ul style="list-style-type: none"> ● 東静岡駅にどのぐらい電車が来て、プラットホームに何人ぐらい入るのか、そういうところもチェックしてもらおうとありがたいと思う。(中村委員) ● 例えば 8,000 人のコンサートが終わり、一斉に出たときに、何本来て、何人乗れるのか、その辺の数字があると議論がしやすい。(菅委員長) 	<p>JR 東海へのヒアリングの結果、在来線の乗車定員は1両あたり150人(座席+立席(吊り革の数))、主に6両編成のため、1編成あたり900人が基本とのこと。</p> <p>大規模イベント開催日など、通常時の運行では輸送が困難と想定される際は、臨時に増便や増結しての対応が考えられるとのこと。</p> <p>また、東静岡駅や南北自由通路(幅15m)は、イベント時の乗降客数の増加や、南北の人の往来を想定し、駅の南北をつなぐ人工地盤として整備されています。</p> <p>電車の運行や、駅の混雑等への影響について、今後、交通分担率や公共交通機関の利用者数の予測などを行い、調査、検討していきたいと考えます。</p>

(2) 市の財政負担

委員からの質問	事務局からの補足説明
<p>【市の財政負担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● どれくらいの規模、どれくらいの稼働率であれば、採算ベースでどれくらい不足するのか、それは誰が負担するのかを議論することが重要。(岩田委員) 	<p>令和3年度に市が実施したプロジェクトシミュレーションの結果は、事業者がアリーナ事業への入札等において検討する際、市の想定や試算等の影響を受けないよう、非公表としています。</p> <p>なお、事業者へのヒアリングや他事例を参考とした、事業費等の概算や運営収支の考え方について、以下の資料のとおり整理しました。</p> <p>【資料3-2】 事業費等の概算・運営収支の考え方</p>

事業費等の概算・運営収支の考え方

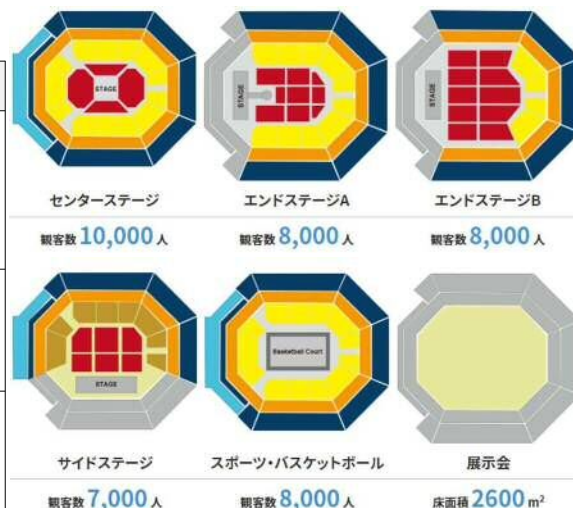
事業費等の概算

■東静岡アリーナ ※現時点における想定

項目	費用・面積	備考
建設費	約100～200億円程度 (参考)	・ 民間事業者へのヒアリング結果より
運営支出	年間 約2～3億円程度 (参考)	・ 静岡市の過年度調査結果より ・ 老朽化等に伴う機能回復の大規模修繕などは別途
延床面積	約20,000～22,000㎡程度 (参考)	・ スポーツ観戦：5,000席以上 ・ 音楽イベント：8,000席～10,000席 を想定

■(参考) 沖縄アリーナ (令和2年度～)

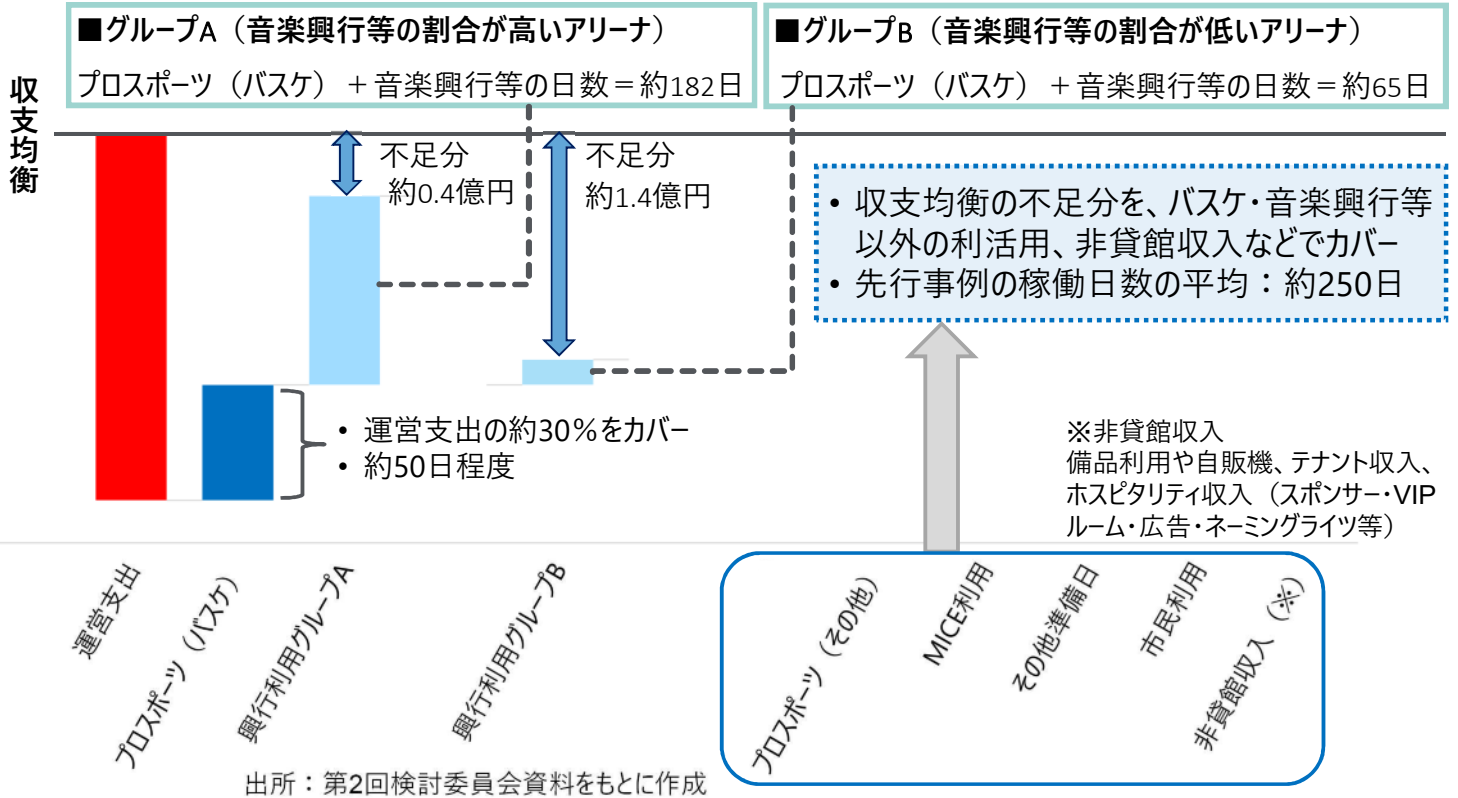
項目	費用・面積	備考
建設費	約162億円 (税込)	・ サブアリーナを含む ・ 建築工事費などのほか、大型映像装置・リボンビジョン、外構工事費、駐車場整備工事費などを含む
運営支出	不明	・ 指定管理者を選定 (R5.4.1～R10.3.31) ・ 公募上限額は年間約0.6億円程度 (税込)
延床面積	27,711㎡	・ 音楽イベント：最大10,000席 ・ プロスポーツ (バスケ等)：最大8,000席 ・ イベントレイアウトは右図のとおり



出所：令和2年度静岡市アリーナ誘致関連調査結果、沖縄アリーナHP、沖縄アリーナ指定管理者募集要項をもとに作成

運営収支の考え方

- ・プロスポーツ（バスケット）：ホームアリーナでの試合日数の要件より、35日程度で仮設定（準備日は本番日の1/2程度（17日）で仮設定）
- ・興行利用料金の単価は、先行事例（横浜アリーナを除く）の平均の料金単価で仮設定



運営収支の考え方

- ・開催イベントのうち、音楽興行等（大規模エンタメ）の割合が高いアリーナを「グループA」、低いアリーナを「グループB」に設定（横浜アリーナを除く）

単位：%

